

ター)

"Basic Skills, thinking skills, and competencies of skilled workers : a comparison of Thailand with East Asian and other Southeast Asian Countries"

Hiroshi Kojima (国立社会保障・人口問題研究所)

"Singapore's changing demographic structure and the policy implications for financial security, employment, living arrangements and health care"

Angelique Chan (シンガポール国立大学社会科学科教授)

"Minimizing health problems to optimize demographic dividend"

Gerald Kost (米国カリフォルニア大学デイビス校健康システム学科教授)

"Maximizing the demographic dividend via regional cooperation in human resource development"

Patcharawalai Wongboonsin (チュラロンコン大学アジア研究所研究員)

Joannis Kinnas (ギリシャ・バイロール大学客員教授)

このセッションと2日目午前の全体会議にはタイを代表する人口学者の参加も得て、活発な議論が行われた。

(小島 宏記)

## 国際労使関係学会第5回アジア地域大会 (IIRA2004)

2004年6月23日(水)～26日(土)に韓国ソウルのオリンピックパークテルで国際労使関係学会(IIRA)主催の第5回アジア地域大会が開催され、アジア太平洋地域から労働研究者と実務家が一同に会した。同大会では労働に関する4大トラックの下でアジア地域の労働研究者・実務家による学術報告が行われたが、25日開催の第4トラック:「労働市場と労働移動」では国際労働移動が主要なテーマの一つで、午前には2つのテーマに関して国際的に著名なPeter D. Doeringer教授(Boston University)が総括報告をするとともに、国際労働移動の分野で日本を代表する研究者、井口 泰教授(関西学院大学)が“Determinants of Intra-Regional Migration and Effects of Economic Partnership Agreements in East Asia”と題された基調講演をした。午後のワークショップ4.5「国際労働移動(2)」では小島が以前の国際人口移動プロジェクトで収集されたマイクロデータ分析に基づく“Return Migration of Japanese Managers on Overseas Mission and Their Health”と題された報告をした。IIRA2004には日本人口学会会員の小野 旭教授(東京経済大学)、当研究所のプロジェクトに参加者の井口教授、神代和欣教授(放送大学)、永瀬伸子助教授(お茶の水女子大学)をはじめとする多数の労働経済学者・労使関係研究者のほか長谷川真一総括審議官をはじめとする行政官も日本から参加していた。

(小島 宏記)